

はるる車々々程此御書筆に似たりや今此好身
をきて、山形は属する、武士の義理ふ目き、頼久公も
暗かし恨むれとる情止るを得ずと思ひきつて山形
へ来るも由迫状は及び子息み玉市を人質として山
形へ赴く、其程此彦守天童を去り山形へ属し、より
結彦守義光公の目見持波し公悦び玉て御書
頼久も此程此猛心を元とて我も属するものなりは
何の事か乱有る事と宣ひ、多く満尚り、頼久面々
左程の事思ひもよふにとり上々此を義光公は是非も
明しとのとあり又義光公尾張守に宣ひ、天童方の

強ちる者共随分はかしく、尾張守よりて色々
方便をめぐり、今此天童方此家光公外、麓下此方の
内成生伯耆守東根常陸守家光里見源重門
前、堀安房守草薙志摩守外、南相模守何れも
貪欲を迷ひ義理を忘れ忽ちに心を變じ、皆く義光公
へ属し、是より頼久公此御書此を承り、嘆へたり